

鹿児島県指宿市で確認されたゴマファザラシの記録

中村潤平

〒 892-0814 鹿児島市本港新町 3-1 いおワールドかごしま水族館

はじめに

アザラシ科鰭脚類 Phocidae は食肉目 Carnivora の海棲哺乳類で、14 属 19 種から構成され、日本国内からはアゴヒゲアザラシ *Erignathus barbatus* (Erxleben, 1777), クラカケアザラシ *Histriophoca fasciata* (Zimmerman, 1783), ゼニガタアザラシ *Phoca vitulina* Linnaeus, 1758, ゴマファザラシ *Phoca largha* Pallas, 1811, およびワモンアザラシ *Pusa hispida* (Schreber, 1775) の 5 種が知られている (和田・伊藤, 1999; 服部, 2020; 田島・山田, 2021)。

2024 年 2 月 13 日に鹿児島湾南西部に位置する鹿児島県指宿市の知林ヶ島周辺でアザラシ科鰭脚類の写真が撮影され、ゴマファザラシに同定された。また、指宿市においては 2023 年 10 月から継続的にアザラシ科鰭脚類の目撃情報が得られていた。そのため、鹿児島県における海生哺乳類の出現状況についての知見の蓄積のためにそれらの概要を報告する。

材料と方法

本報告に用いた写真 (Figs. 1, 2) は 2024 年 2 月 13 日に鹿児島県指宿市の知林ヶ島南西沖 (鹿児島湾南西部: 31°16'N, 130°40'E) で著者により撮影された。鰭脚類の分類体系、標準和名、および学名は田島・山田 (2021) の「海生哺乳類 種名表」にしたがった。

結果と考察

鹿児島県指宿市で撮影された個体 (Figs. 1, 2) は、頭部以外確認することができなかったが、耳

介がないことと頭部の形態からアザラシ科であると判断され、頭部に黒色斑がみられ (Fig. 2A), 顔が暗色であることがゴマファザラシ *Phoca largha* の特徴 (ジェファソンほか, 1999; Kobayashi, 2015) と一致したため、本種に同定された。

ゴマファザラシはボフォート海, チュクチ海, 東シベリア海南東部, ベーリング海, オホーツク海, 日本海, および黄海北部とそれらの海域に隣接する湾に分布し、日本国内において通常は北海道のみに分布する (和田・伊藤, 1999; Boveng et al., 2009; Kobayashi, 2015)。そのため、本来の分布域外の鹿児島湾に出現した本個体は、海流等による偶発的な来遊であると考えられる。

なお、指宿市の知林ヶ島周辺においては、2023 年 10 月 2 日にゴマファザラシと考えられるアザラシ科鰭脚類が目撃され、動画が撮影された (鹿児島ニュース KTS, 2023)。本調査の過程で指宿漁業協同組合や指宿市の方々等に聞き込み調査をおこなったところ、知林ヶ島や魚見港 (指宿市西方) の周辺においては 2023 年 10 月から現在 (2024 年 2 月) に至るまで継続的にアザラシ科鰭脚類が目撃されているようであった。そのため、本報告で示した個体は 2023 年 10 月頃から鹿児島湾内に滞在していた可能性が高い。

鹿児島県においてアザラシ科鰭脚類はこれまでに南さつま市笠沙町 (ゴマファザラシ, 1999 年 6 月, 定置網で混獲), 種子島 (ゴマファザラシ, 2015 年 6 月, 港内に迷入), 奄美大島 (種不明, 1994 年 3 月, 2 頭が海岸に漂着), および与論島 (ゴマファザラシ, 1990 年 6 月, 港内に迷入) から

Nakamura, J. 2024. Record of the Spotted Seal *Phoca largha* (Carnivora: Phocidae) from Ibusuki City, Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 50: 181–183.

✉ JN: Kagoshima City Aquarium, 3-1 Honko-shimmachi, Kagoshima, 892-0814, Japan (e-mail: j-nakamura@ioworld.jp).

Received: 3 March 2024; published online: 5 March 2024; https://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_050/050-033.pdf



Fig. 1. Photograph of the Spotted Seal *Phoca largha* taken at Ibusuki City, Kagoshima Prefecture, Japan on 13 Feb. 2024.

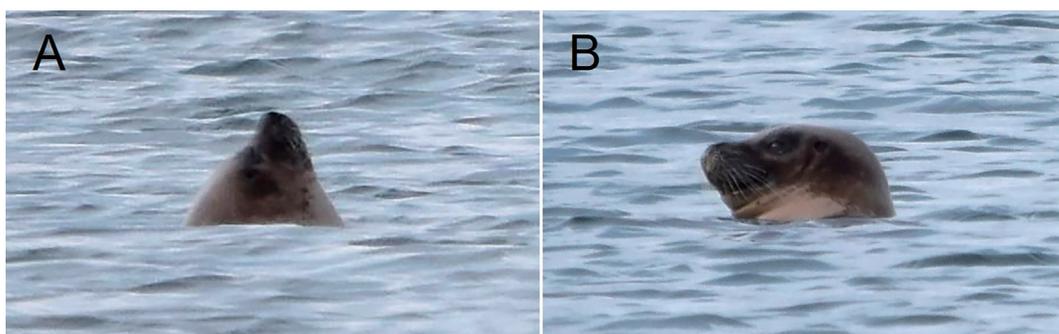


Fig. 2. Photographs of the right (A) and left (B) side of head of *Phoca largha* taken at Ibusuki City on 13 Feb. 2024.

記録されている（財団法人日本鯨類研究所，2000；蛭田・濱野，2001；国立科学博物館，online）。なお，鹿児島湾においては2011年4月に肝属郡南大隈町佐多伊座敷沖，2018年5月に鹿児島市の甲突川河口で鰭脚類と思われる生物の目撃情報が得られているが（いおワールドかごしま水族館，未発表データ），証拠となる写真等は撮影されておらず詳細は不明である。そのため，本研究で確認された個体は鹿児島県におけるアザラシ科鰭脚類の5例目の確実な記録となる。

謝 辞

本報告の執筆に際して，指宿漁業協同組合，鹿児島テレビ放送株式会社，鹿児島大学大学院農林

水産学研究科の石原祥太郎氏，および聞き込み調査にご協力いただいた指宿市のみなさまには指宿市に出現したアザラシ科鰭脚類に関する情報の提供を賜った。マリンワールド海の中道の和田夏海氏といおワールドかごしま水族館の久保信隆氏には文献の収集にご協力いただいた。いおワールドかごしま水族館の柏木伸幸氏には種の同定に関して助言をいただいた。上記の方々に深く感謝申し上げる。

引用文献

Boveng, P. L., J. L. Bengtson, T. W. Buckley, M. F. Cameron, S. P. Dahle, B. P. Kelly, B. A. Megrey, J. E. Overland and N. J. Williamson. 2009. Status review of the spotted seal (*Phoca largha*). National Technical Information Service, Virginia. 153 pp.

- 服部 薫. 2020. 日本に生息する鰭脚類. pp. 1-15. 服部 薫 (編) 日本の鰭脚類 海に生きるアシカとアザラシ. 東京大学出版会, 東京.
- 蛭田 密・濱野 真. 2001. 九州沿岸における鰭脚類の漂着・迷入・混獲について. 日本海セトロロジー研究, 11: 15-19.
- トマス A ジェファソン・スティーブン レザウッド・マーク A ウェーバー (著). 山田 格 (訳). 1999. 海の哺乳類 FAO 種同定ガイド FAO species identification guide. Marine mammals of the world. NTT 出版株式会社, 東京. 336 pp.
- 鹿児島ニュース KTS. 2023. 「あっ、アザラシだ！」 波間からのぞく顔 知林ヶ島で珍客を発見！ ゴマフアザラシか 鹿児島・指宿市 (23/10/03 20:11). <https://www.youtube.com/watch?v=xQNFoB4ZUf0>
- Kobayashi, M. 2015. *Phoca largha* Pallas, 1811. pp. 282-284. In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh. (eds.) The wild mammals of Japan, 2nd. Edition. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
- 国立科学博物館. online. 海棲哺乳類ストランディングデータベース. <https://www.kahaku.go.jp/research/db/zoology/marmam/drift/index.php> (最終閲覧日: 18 Feb. 2024)
- 田島木綿子・山田 格 (監). 2021. 海棲哺乳類大全 彼らの体と生き方に迫る. 緑書房, 東京. 351 pp.
- 和田一雄・伊藤徹魯. 1999. 鰭脚類 アシカ・アザラシの自然史. 東京大学出版会, 東京.
- 財団法人日本鯨類研究所. 2000. ストランディングレコード (2000年4月~7月). 鯨研通信, 407: 21-28.